

① クロッキーが作品に活かされた、と感じた瞬間
はありますか？

人物画に限らず、画面の動きやバランスを作る際にはクロッキーの影響を感じます。

作品が弱気になっていると感じるときも、クロッキーの際の思い切りの良さを反芻するようにしています。

② どんなクロッキーをやってみたいですか？（素材、サイズ、時間、モデルの設定など）

ダブルポーズでのクロッキー、画面は全紙～100号など、なるべく大きいほうが楽しそうです。

あとは脚立から見下ろすような視点のクロッキーなど、普段とは違った視点で取り組んでみたいです。

③ クロッキーに欠かせない要素とは何だと思いますか？

フォーマットのことなら、時間制限。

精神的なことなら「画面に向かう意識」かなと思います。

④ クロッキーの醍醐味は何だと思いますか？

制作の贅肉を削いでいく感じ。最後に捨てきれないこだわりが残る感じがストイックで良いです。

⑤ どういう時にクロッキーをやりたくなりますか？

エンジンの回転数を上げたい時。大きな作品に取り掛かる前や、制作期間に少し間が空いてしまった時期などは特にそう感じます。

また、なにかを決断する勇気が出ないときには、なぜか描きたくなります。

⑥ 公開クロッキーを通して発見した、または再認識した事柄はありますか？

他の演者の実演を見ていると、形の取り方やタッチの置き方の癖が見えてきます。

なぜそこで？と思う箇所を観察すると、いままで意識していなかった形が隠れていたりします。

作家同士、一緒の空間で制作をするというのは思いもかけぬ発見があると、今更ながら感じました。

⑦ 普段の制作の中においてこだわりを持っているポイントはありますか？

いろいろあるとは思いますが、絵具のタッチの魅力を出すことです。

⑧ クロッキーをする上で、こだわっているものはありますか？

今日の制作はどういう方針にするか、スタートする前に決めることです。

例えば、「陰影を軸に描く」もしくは「なるべく陰影を拾わずに描く」などです。

⑨ 逆に意外とこだわりのないものはありますか？

技法や手順などは特にこだわりのないです。その時々でなんとか捻り出すのが良い結果につながるのです。